



たいしも通信

みなさま、新年あけましておめでとーございませう。

令和7年は概ね平穏にスタートしましたが、今この時にも任務に就いておられる現職自衛官の方々に思いを馳せ、まずは感謝申し上げます。これらを踏まえ、今回は防衛関連ニュース第3弾として、新年の少し大きな話題をお送りいたします。

◆自衛隊の新たな「巨大拠点」

広島県呉市は2024年9月、日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区跡地に防衛省が整備を想定している「多機能な複合防衛拠点」のゾーニング案(用途や目的によって空間や情報を区分けすること)を明らかにしました。この製鉄所は戦艦大和を建造した呉海軍工廠の跡地に1951年に建設されましたが、2023年秋に操業を停止。防衛省はこの跡地に「多機能な複合防衛拠点」を整備する意向を表明。日本製鉄との間で跡地の一括購入に向けた交渉が進められています。今回の案では、岸壁などの港湾機能エリア、装備品などの維持整備・製造基盤エリア、防災拠点エリア(ヘリポートや物資の集積場等)および部隊の活動基盤エリア(艦艇の配備、訓練場等)を配置する方針が示されました。装備品などの維持整備・製造基盤エリアには民間企業誘致も想定されています。

複合防衛拠点の整備理由については、「防衛力の抜本的強化のため、装備品の維持整備や訓練、補給などを一元的に機能させて部隊運用の持続性を高める必要があるため」としています。また、呉市に整備する理由については、海自呉総監部があり、陸自13旅団の主力部隊がある海田市駐屯地にも近いことや、太平洋や日本海、南西方面へのアクセスがよく、地理的に重要な場所のため、などとしています。

◆馬毛島(まげしま)

呉より前から話題になっていたのが馬毛島(まげしま)です。種子島の西方12km、船便で約30分の距離の東シナ海にある島で、面積8.20km²、外周16.5kmとなっており、昔は狩猟や漁業基地として以外、殆ど定住者はなかったようです。明治以降は牧畜が試みられましたが、太平洋戦争末期に帝国海軍の防空監視所が設置され、無定住者島となりました。戦後は農業開拓団が入植し、ピーク時は113世帯528人となったそうですが、農業に適さない土地であることから再び無人となり、日本で2番目に大きな無人島となりました。

昭和49(1974)年に民間会社が島ごと買収し、レジャー施設の建設を計画するも挫折。その後会社そのものを含む吸収・合併が繰り返されたものの実際の開発は進まず、わずかに採石事業などが行われるに留まり、平成17(2005)年の国勢調査では、同社の従業員15人が住民として登録され、25年ぶりに再び有人島扱いとなりました。その後、硫黄島に代わる米海軍空母艦載機の陸上空母離着陸訓練(RCT)利用の可能性が報道されると紛糾。平成22(2010)年、防衛省は「新たな自衛隊施設の整備」として、馬毛島の自衛隊使用を計画し、同島を南西シフト態勢の上陸演習場、事前集積拠点、そして災害派遣時の物資集積場として使用するとされ、平成30(2018)年、防衛省が馬毛島を海上・航空両自衛隊の拠点として活用する方針を固めたことが報じられ、今日に至ります。

▼編集後記▲

呉の方は、前回お話しした3幕をまたいで新編される海上輸送群(仮称)と関係が深いですね。馬毛島の方は南西諸島を睨んだ不沈空母的な意味合いで、タイムリーで興味深いです(飲み屋街が無いのであまり勤務したくはない)。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。